

1. 全体会議

1.1 開会式

(1) 挨拶

皆さん、お早うございます。

このたび、第五世代コンピュータ国際会議、1984を開催しましたところ、海外および国内各方面からご来賓各位をはじめ、1,100名を超える多数の方々のご参加を賜わり、誠にありがとうございます。

顧みますと、ちょうど3年前、1981年10月、東京におきまして、初めて「1981第五世代コンピュータ国際会議」が通商産業省の後援、財団法人日本情報処理開発協会の主催で開催されました。この国際会議において、日本の第五世代コンピュータの実現のための研究課題、および計画が公表され、世界15カ国、約300名の方々の参加者により、熱心な意見交換が行なわれたのであります。

翌1982年4月、通商産業省は、この国際会議をふまえて、10年の計画の第五世代コンピュータ・プロジェクトを開始し、同時に実施のための中核組織として財団法人 新世代コンピュータ技術開発機構が設立されたのであります。

ご承知のとおり、本プロジェクトは、1990年代に実現をめざす革新的な知識情報処理指向のコンピュータの技術開発であります。未踏の情報技術分野を対象に、世界に先がけて先端的技術開発を行なうことにより、創造的な自主技術の確立をはかるとともに、国際的貢献を期するものであります。10年間の長期計画に基づき1982年からの前期3年間で基礎技術の開発、1985年からの中期計画で、サブシステムの開発、1989年からの後期3年間でトータルシステムのプロトタイプの開発が予定されております。

当機構の発足、その後の研究開発の実施にあた

財団法人 新世代コンピュータ技術開発機構
理事長 片山仁八郎

りましては、通商産業省をはじめ、官界、学界、産業界と、広く関係各方面の強力なご支援、ご協力をいただいております。

当機構の研究所は、約50名の研究員で構成されており、電子技術総合研究所、日本電信電話公社電気通信研究所、コンピュータ関連メーカーの研究所等から出向してきた研究者たちが、協力して研究開発に従事しておりますが、研究開発の推進にあたっては、アドバイザー・グループとして、官界、学界、産業界、各方面の専門家の方々にご参加をいただき、そのご指導をあおいでおります。

プロジェクト開始時に比べ、当機構を中核として関連する研究者の層も漸次厚みを増してきているものと考えられます。

前期については、通産省の委託を受けて、1982年度に約4億円、1983年度に約27億円、1984年度に約51億円の予算で研究開発を実施しております。

他方、海外に目を転じますと、日本の第五世代コンピュータ・プロジェクトの開始は、世界各国の多大な反響を呼び、欧米主要国でも、同種のプロジェクトが開始されるに至り、国際的な研究交流も逐次進められようとしております。

本年は、前期3カ年の最終年度であり、来年から始まる中期計画の検討も進められております。

この時期をとらえまして、前述のような状況を背景に、本日より4日間にわたり、本プロジェクトの前期3カ年の研究活動状況と、その成果を報告し、あわせて内外の関連研究者による研究発表と、相互の意見交換を行なうことを目的として、この国際会議を開催することといたしました。

開催にあたりましては、実行委員会 元岡 達

委員長、相磯秀夫プログラム委員長、山本欣子広報委員長をはじめ、実行委員会の委員各位に献身的なご尽力を賜りましたので、ここに厚くお礼申し上げます。

今回の国際会議には、我々の予想を上回る多数の方々のご参加をいただき、また、数多くの論文の応募がございました。参加者の方々のご協力と活発な意見交換を通じまして、実り豊かな国際会議となり、中期へ向けての展望をより確固たるものにするとともに、世界各国における先端的コンピュータ技術、研究開発に大きく貢献することを念願しまして、開会の挨拶といたします。

ご静聴ありがとうございました。